

# 教師用指導資料「サイクルで進める組織的な取組」 (解説資料)

～子どもたち一人一人が大切にされ、安心して学ぶことができる

集団づくりと授業づくりのために～

---

令和3年度 児童・生徒指導推進委員会  
〔事務局〕 栃木県教育委員会事務局  
学校安全課児童・生徒指導担当  
義務教育課指導担当  
高校教育課指導担当  
特別支援教育室特別支援教育担当



## 教師用指導資料「サイクルで進める組織的な取組」の作成の趣旨について

いじめをはじめとする問題行動や不登校等、児童・生徒指導上の諸課題は複雑化、多様化しており、特に不登校については、小・中学校及び義務教育学校における不登校児童生徒数が8年連続して増加傾向にあります。

このような状況を踏まえ、各学校では、一人一人の児童生徒の状況や、問題行動や不登校等の背景等に応じて、家庭や関係機関と連携しながら丁寧に指導を行うとともに、日頃から未然防止の取組も実施しているところです。

そこで、各学校における日頃の取組をより効果的なものとするためには、学校が組織として、一人一人の児童生徒理解及び学級(ホームルーム)集団の実態を適切に把握し、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の相互の関連を図りながら、児童生徒の実態に即して意図的・計画的に取組を進め、さらに、PDCAサイクルによる取組の点検・見直し等を行うことが重要であると考え、本資料を作成しました。

本資料が、各学校における「子どもたち一人一人が大切にされ、安心して学ぶことができる集団づくりと授業づくり」に向けた取組の一助となれば幸いです。



## 教師用指導資料「サイクルで進める組織的な取組」(解説資料)の活用について

教師用指導資料「サイクルで進める組織的な取組」(以下、リーフレット)では、各学校が実際に取組を進める際の参考となるよう、「2組担任」から「学年主任」への相談をきっかけに、3人の担任と学年主任の4人の教師が、P(計画)、D(実行)、C(点検)、A/P(修正/計画)のサイクルで取組を実施するという場面を設定し、具体的な取組内容を掲載しました。

この解説資料には、リーフレットの2～4ページに掲載した、P(計画)、D(実行)、C(点検)、A/P(修正/計画)のサイクルにおけるポイント等を掲載しましたので、各学校において、リーフレットの事例を参考に、学校の実情や児童生徒の実態等に応じた取組を計画、実践する際、校内研修等の機会に、本解説資料を全ての教職員や学年の教職員で共有するなどして活用してください。



## PDCAサイクルで進める取組について

リーフレットに掲載した事例では、3月から1年後の4月までの取組を示しましたが、その後の1年間においても取組を進めていると考えてください。

また、年間に3回(3月～8月、8月～12月、12月～3月)、PDCAサイクルで取組を行います。

- ① P(計画): アンケート調査による実態の把握、課題や目標の設定
- ② D(実行): 働きかけ・取組
- ③ C(点検): アンケート調査結果の分析、取組の見直し
- ④ A/P(修正/計画): 目標や取組の修正、方向性の共有
- ① D(実行): 働きかけ・取組

↓  
⋮



P(計画):アンケート調査による実態の把握、課題や目標の設定

P(計画)では、アンケート調査を通じて、児童生徒の意識を把握します。

Point 1

リーフレットでは、肯定的な回答が少なかった「授業がよくわかる」に着目しましたが、例えば、「みんなで何かをするのは楽しい」に着目し、さらに伸ばすことを目標とすることも可能です。

Point 2

アンケート項目は、例の通り簡単なものでかまいません。同じ項目で繰り返し調査することで、児童生徒の意識の変化を把握することができます。

また、学校の実情に応じて設定することも可能です。

アンケート項目 (3月：学年集計)	1. 当てはまる 2. どちらかという当てはまる 3. どちらかという当てはまらない 4. 当てはまらない [%]			
	1	2	3	4
ア 学校が楽しい	40	36	10	14
イ みんなで何かをするのは楽しい	50	37	5	8
ウ 授業に進んで取り組んでいる	31	44	17	8
エ 授業がよくわかる	25	37	23	15

Point 3

新たにアンケート調査を実施するのではなく、既存の「学校生活アンケート」等に項目を追加して実施することも可能です。



## D(実行):働きかけ・取組

D(実行)では、アンケート調査結果を踏まえて設定した課題や目標を意識しながら、働きかけや取組を進めます。

勉強が苦手な子どもたちのことを考え、基礎的な内容を重視した授業がしたいです。



私も同じです。勉強が苦手な子どもたちが興味をもつ資料を授業で活用します。



### Point 1

学年会議等の機会を活用し、取組状況や児童生徒の様子等について情報交換を行い、取組の改善や修正の必要性等について検討します。

また、検討の結果、必要があると判断した場合には、取組の改善や修正を行うことが大切です。

一人一人の子どもたちはどのように感じているのか気になります。



## C(点検): アンケート結果の分析、取組の見直し

C(点検)では、アンケート調査を実施し、前回のアンケート結果との比較等を通じて、これまで実施した取組を振り返ります。

### Point 1

アンケート調査は、3月、7月、12月の3回実施します。それぞれ、春休み、夏休み、冬休みを活用し、前回のアンケート結果との比較等、取組の効果の検証等を行います。

### Point 2

アンケート結果を比較する際、「1 当てはまる」に焦点を当てます。そうすることで、例えば、「3 どちらかといえばあてはまらない」、「4 当てはまらない」と否定的な回答をした児童生徒だけではなく、「2 どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒も対象として、「1 当てはまる」と回答するようになるための働きかけを検討する視点が得られます。



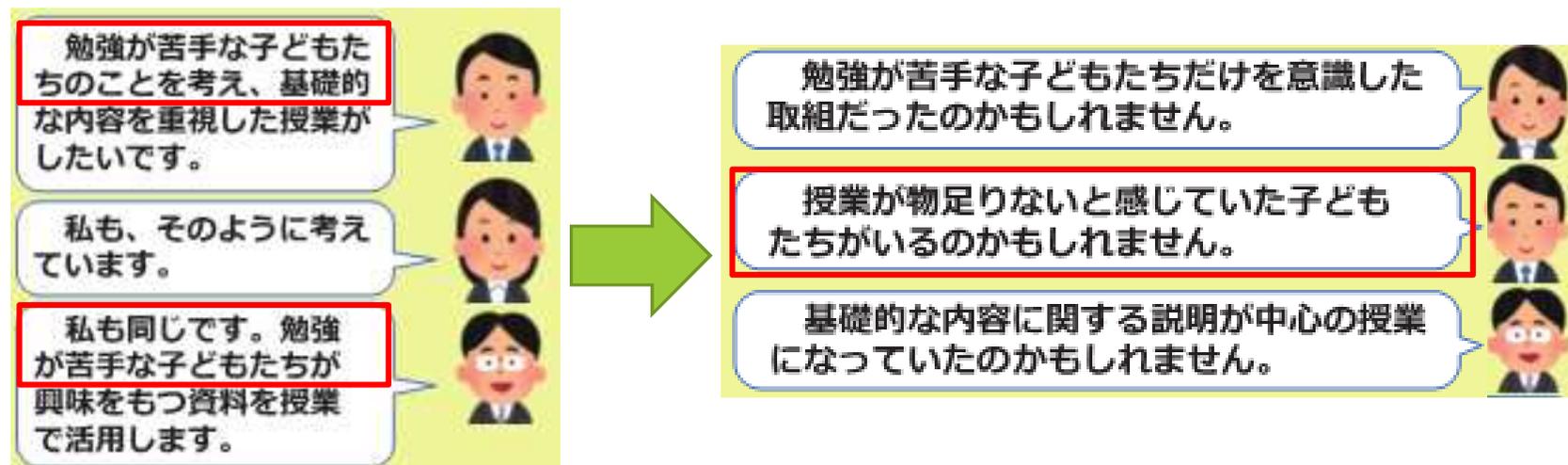
C(点検): アンケート調査結果の分析、取組の見直し

Point 3

アンケート結果から、これまで実施してきた取組を振り返り、話し合います。  
アンケート結果の比較による取組の点検は、児童生徒を評価するためのものではなく、教師の働きかけ・取組を点検するために行うものと捉えることが大切です。

Point 4

「勉強が苦手な子どもたち」など、一部の児童生徒ではなく、全ての児童生徒に目を向けて取組を行うことが大切です。



## A/P(修正/計画): 目標や取組の修正、方向性の共有

A/P(修正/計画)では、C(点検)の結果を踏まえ、目標や取組を修正したり、今後の方向性を共有したりします。

### Point 1

共通の取組を設定することで、教職員がチームとして取り組むことにつながります。

### Point 2

学年会議等の機会を活用し、共通の取組の実施状況や児童生徒の様子等について情報交換することで、教師同士または教師と児童生徒の感じ方の差などを把握したり、その修正について検討したりすることにつながります。

- 子どもたちがお互いのよいところを認めたり、励ましたりする場面を設定する。
- 子どもたちが安心して発言できるよう、授業中の約束事を明確にする。
- グループ活動等において、一人一人の子どもに役割を与えとともに、活躍の場を設定する。



## D(実行):働きかけ・取組

2回目のサイクルにおけるD(実行)では、A/P(修正/計画)の結果を踏まえ、修正した目標や共通の取組等を意識しながら、働きかけや取組を進めます。

## Point

学年会議等の機会を活用し、取組状況や児童生徒の様子等に関する情報交換を通じて、取組の改善や修正の必要性等について検討します。

また、検討の結果、必要があると判断した場合には、取組の改善や修正を行うことが大切です。

- 子どもたちがお互いのよいところを認めたり、励ましたりする場面を設定する。
- 子どもたちが安心して発言できるよう、授業中の約束事を明確にする。
- グループ活動等において、一人一人の子どもに役割を与えるとともに、活躍の場を設定する。

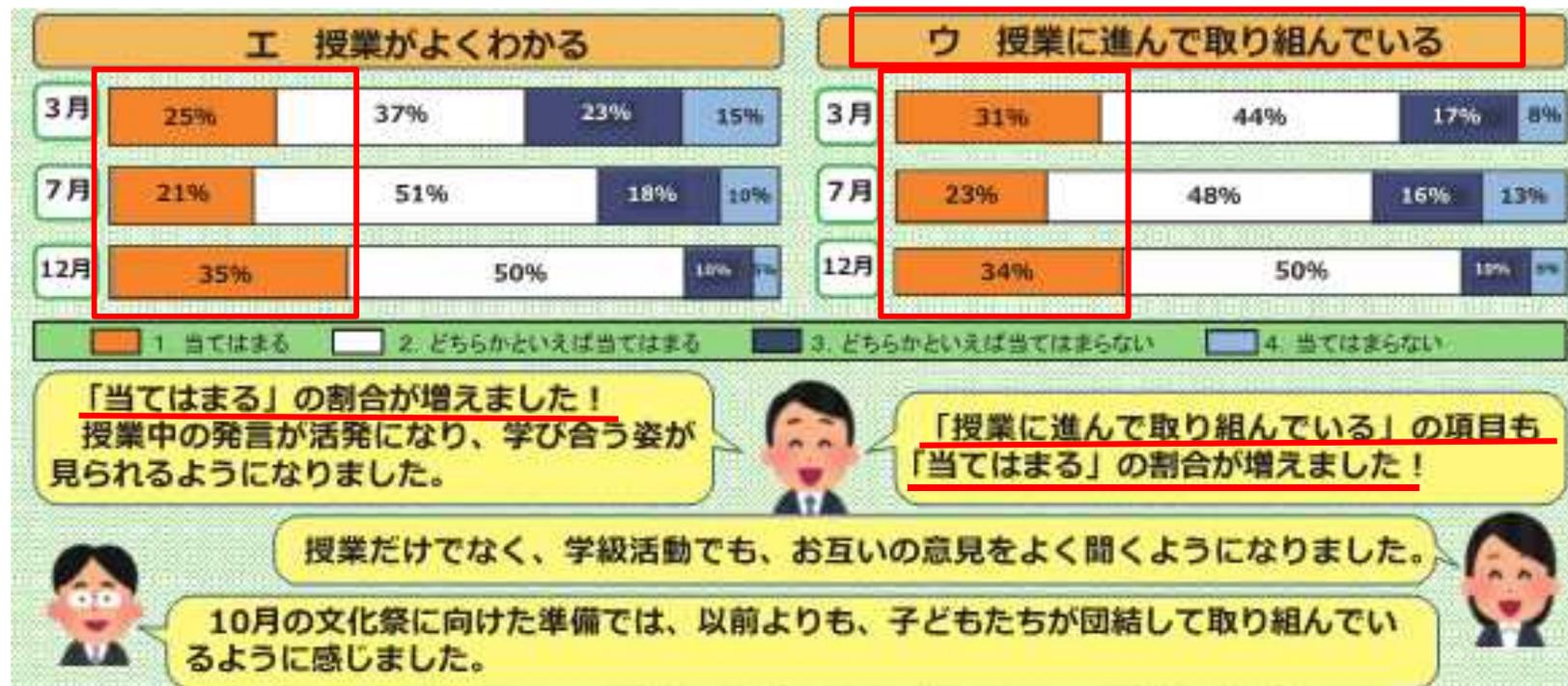


## C(点検): アンケート調査結果の分析、取組の見直し

2回目のC(点検)では、アンケート調査(12月)を実施するとともに、3月、7月、12月のアンケート結果を比較し、これまで実施した取組を振り返ります。

### Point 1

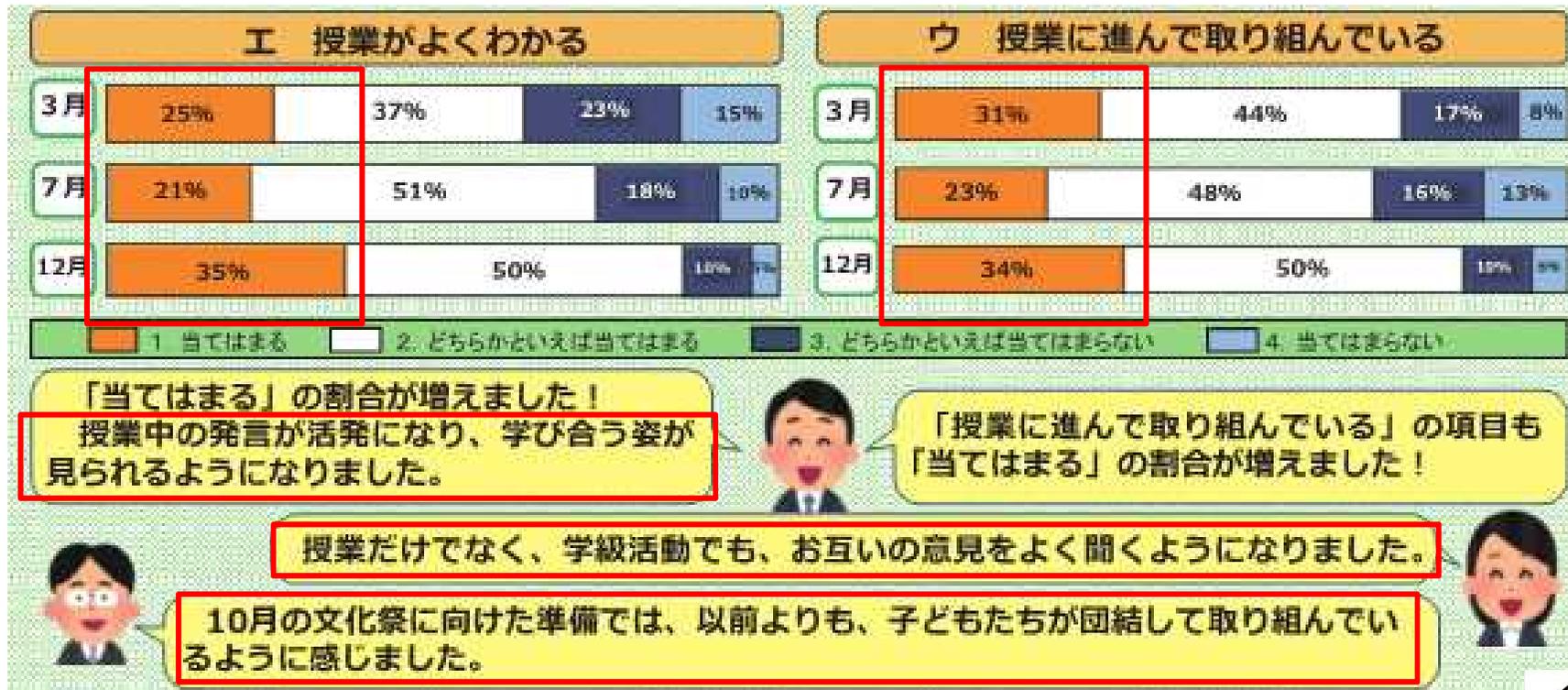
「1 当てはまる」に焦点を当てて比較します。また、「授業がよくわかる」以外の項目の結果との比較も行い、前回のC(点検)と同様、児童生徒の様子やこれまで実施してきた取組を振り返り、話し合います。



C(点検): アンケート調査結果の分析、取組の見直し

Point 2

事例では、「エ 授業がよくわかる」、「ウ 授業に進んで取り組んでいる」の回答を取り上げましたが、取組を振り返る際、授業中の児童生徒の様子だけでなく、学校行事や学校生活での児童生徒の様子についても、情報交換することが大切です。



## A/P(修正/計画): 目標や取組の修正、方向性の共有

2回目のA/P(修正/計画)では、前回のC(点検)の結果を踏まえ、必要に応じて、目標や取組を修正し、共通理解に基づき取組を進めます。

## Point

前回のC(点検)の結果を踏まえ、必要がある場合には、これまで実施してきた共通の取組等を変更します。学年会議等での意見交換を通じて、児童生徒の実態に即した取組を計画・実施することが大切です。

## D(実行)⇒C(点検)⇒A/P(修正/計画)⇒D(実行)⇒・・・

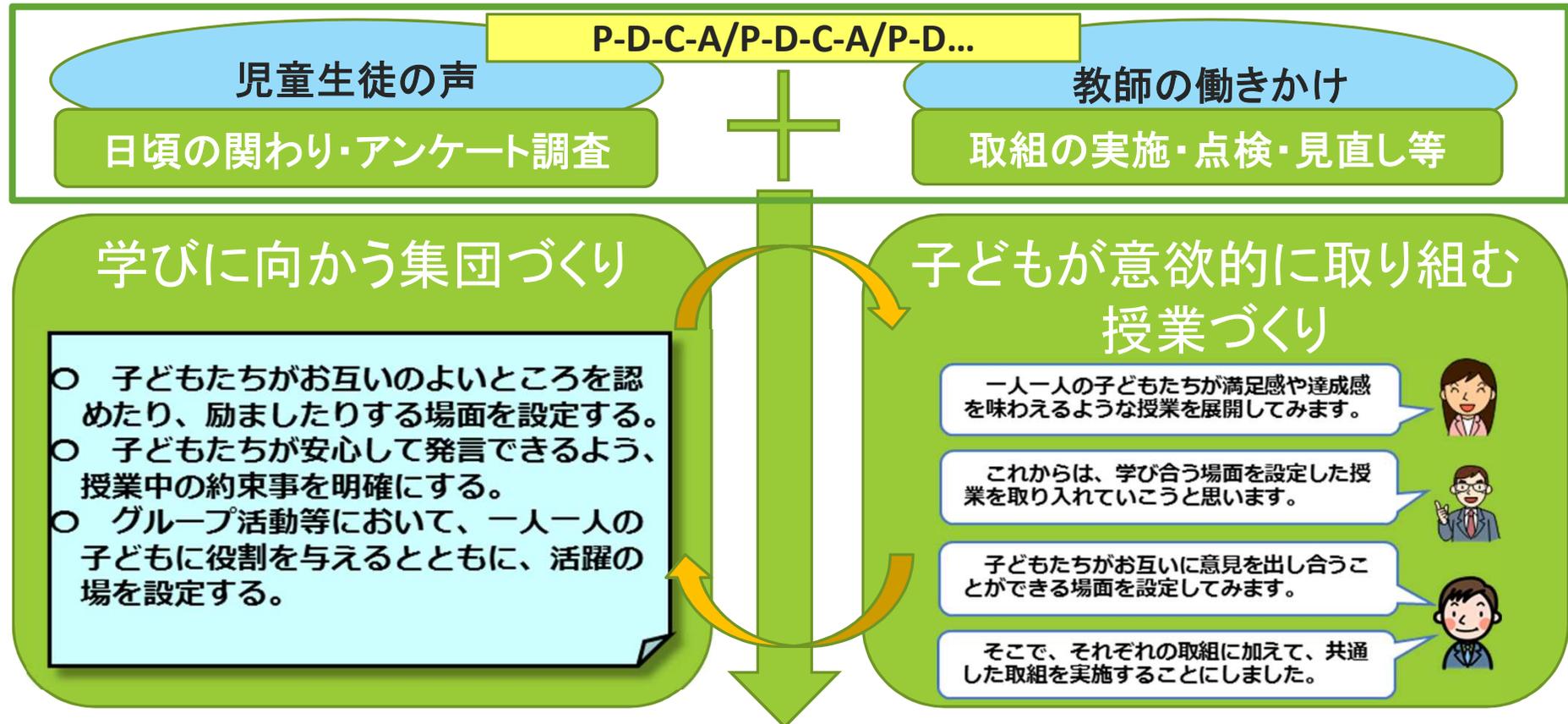
このあとも、アンケート調査を通じて、児童生徒の意識を把握しながら、PDCAサイクルで取組を進めます。

## Point

児童生徒に期待する姿、アンケート調査を通じて把握した児童生徒の意識、取組を通じた児童生徒の変容など、児童生徒を中心に据えて、定期的な意見交換や取組の点検等を実施することで、児童生徒の実態に即した取組につながります。



# サイクルで進める組織的な取組



## 児童生徒の実態に即した効果的な取組

子どもたち一人一人が大切にされ、  
安心して学ぶことができる集団づくりと授業づくり



## 令和3(2021)年度 児童・生徒指導推進委員会 委員名簿

No.	氏名	所属・役職等	備考
1	藤平 敦	日本大学文理学部 教授	委員長
2	吉原 健一	栃木県総合教育センター研修部 指導主事	委員
3	小川 智	研究調査部 指導主事	委員
4	揖斐 俊博	教育相談部 指導主事	委員
5	高根沢 伸友	幼児教育部 副主幹	委員
6	野口 幹	河内教育事務所 指導主事	委員
7	秋元 啓介	上都賀教育事務所 指導主事	委員
8	渡辺 智則	芳賀教育事務所 指導主事	委員
9	青木 圭	下都賀教育事務所 指導主事	委員
10	柴田 哲朗	塩谷南那須教育事務所 指導主事	委員
11	屋代 聖之	那須教育事務所 指導主事	委員
12	塚越 道生	安足教育事務所 指導主事	委員

〔事務局〕 栃木県教育委員会事務局

○ 学校安全課児童・生徒指導担当

佐藤 俊宏(副主幹・GL)、高山 道長(指導主事)、神山 和泰(指導主事)、永利 英剛(指導主事)

○ 義務教育課指導担当 坂井 英史(副主幹) ○ 高校教育課指導担当 柏木 剛(副主幹)

○ 特別支援教育室特別支援教育担当 人首 健一(指導主事)



栃木県教育委員会

とちぎに愛情と誇りをもち  
未来を描き ともに切り拓くことのできる  
心豊かで たくましい人を育てます

